

学校現場の声、 教職員アンケート報告

全国聴覚障害教職員協議会

埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園 教頭 棚田 茂

教職員アンケートの質問項目について

- ① あなたの学校で臨時休校はありましたか。いつまで臨時休校でしたか。
- ② 臨時休校の間、子どもたちの様子の把握、学習について、実施していたことを教えてください。
- ③ 学校再開後の感染症予防に関して、あなたの学校ではどのような対応をしていますか。
- ④ 学校再開後の授業運営上の工夫に関して、あなたの学校ではどのような対応をしていますか。
- ⑤ 口の動きや表情が見えるよう、フェイスシールドを作成していますか。フェイスシールド作成にあたり、どのようにして作りましたか。
- ⑥ 一般の（布・紙製の）マスク着用について不便を強いられていますか。
- ⑦ 新型コロナウイルスの感染者は一次に比べ、減少してきていますが、今後、教育現場においてどのようなことが課題になるとお考えですか。

ICTを活用したオンライン学習の実現へ

- 双方向ビデオ通信機能を使った会議システムの活用
 - オンラインホームルーム、オンライン面談など
- Youtube等の動画配信システムの活用
 - 教科学習支援のための動画作成と動画配信
 - 絵本の読み聞かせ
- 埼玉県における取り組み
 - 大宮ろう学園
 - 坂戸ろう学園



飛沫防止のためのマスクについて

- 学校再開後のマスクの使用について取り組んだこと
 - 教師側はフェイスシールドや透明マスクを積極的に着用
 - 児童生徒もフェイスシールドや透明マスクの他、一般のマスクを着用
- 実際は・・・？
- 教師が聴者かろう者に関係なく、児童生徒も一般のマスクをつけたまま、授業するケースも・・・。
- 埼玉県の事例

手話があれば、布マスク等をつけても分かるよ！
NMMや指文字などで十分カバー可能



校内会議における取り組みについて

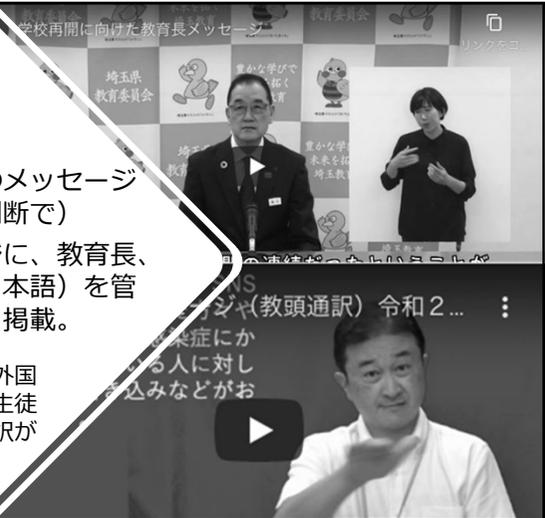
- 職員会議は教職員全員が出席するため、三密の状態を作ってしまう
- いくつかの部屋に分散して、ZOOMなどを利用したビデオ双方向通信で会議。



何故、ろう通訳？
危機管理にこそ、ろう通訳は必要

- 埼玉県教育委員会教育長のメッセージにろう通訳。（管理職の判断で）
- 坂戸ろう学園ホームページに、教育長、校長からのメッセージ（日本語）を管理職が日本手話に翻訳し、掲載。

日本語が読めない、保護者（聾外国人）や、日本手話で育った児童生徒が多いため、日本手話による翻訳が急務であると判断し、危機管理の観点から掲載。



今後の課題および展望

- ろう学校では、当事者による視点が重要
 - すべての児童生徒、保護者、関係者に平等に情報を提供する
 - すべての児童生徒の学習保障を図る（字幕があればいいという問題ではない。日本手話による学習保障も必要）
 - メーリングリストの活用には限界がある。
 - メーリングリストに投稿するのは、管理職、主事、主任、そしてろうの先生。一般の聞こえる先生はあまりメールを投稿しない。
 - 一般の聴者にも参加させるためには、ZOOMによるオンライン会議も視野に入れる。
 - 音声ありきの聴者優位のろう学校を、ろう者中心の学校にするためには、「デフフッドの視点」が必要。